

北陸

北陸総局
〒961-8600 新潟市東区 新潟一帯
543 (南越後ビル)
☎ (025) 221-5411
FAX (025) 221-5412
ホームページ http://www.nikken.co.jp

05.8.19

北陸整備局 産官学で新技術活用委 社会還元へ試行促進



柳川局長

などに寄与する民間技術の開発と普及を促すとともに、優れた新技術の迅速な評価と現場試行を促進し、社会還元への早期発現を目指す方針だ。

技術活用システム（NETIS）の試行4年を契機に、登録した技術の活用が不発案などの点を踏まえ、見直した。技術指定システムなど3方式の従来方式を、評価試行方式とテーマ設定技術募集方式の2方式に再編するとともに、第三者を含む新技術活用評価委員会の設置による新たな評価手続きを決めた。

画期的な技術を推奨技術として選定し公開するほか、評価試行として、安全性と耐久性などを事前確認し施工実績の多少にかかわらず、現場で試行するのが特徴。これにより、開発から試行までの迅速化などの加え、学識者や民間技術者らを加えた新技術活用評価委員会により、事前評価や事後評価の透明性と客観性が担保される。

新技術活用委に土工協、北陸支部など参加
新技術活用評価委員会は学識者5人、民間団体の技術者5人、整備局側の17人で構成。委員長には長岡技術科大の丸山久一（丸山久一）が就任。民間側からは日本土木工業協会（土工協）、北陸支部の小林哲男副幹事、日本道路建設業協会（道建協）、北陸支部の石川好信幹事兼技術委員長、建設コンサルタンツ協会（建コン協）、北陸支部の坂上三雄河川・砂防委員長、日本埋立浚渫協会（埋浚協）、北陸支部の藤原聖記技術委員長、大澤龍一日本建設機械化協会北陸支部運営委員の5氏が

北陸地方整備局は17日、新技術活用評価委員会を立ち上げ、新潟市内で第1回委員会を開いた。評価試行の第1弾として「空気融雪ACCRES（アクセス）」の事前審査を実施。公共工事の品質確保や「コスト削減

が参考。
第1回委員会では、興和（新潟市）が開発申請した空気融雪技術について事前評価を実施。ゴムチップ成型緑化工法と鋼製チェーン式弾性型水平部材の新技術2件が紹介された。

成17年) 8月12日 (金曜日)

日刊 建設

NETIS技術評価委

中国でも9月発足

活用拡大へ産学官連携

本年度、再編強化された新技術情報提供システム（NETIS）で新たに導入された「評価試行方式」の事前事後評価を行う技術評価委員会が、国土交通省の各地方整備局で順次設置されている。中国地方整備局でも、9月中の発足目指して設立準備が進んでいる。産学官が連携し、優れた技術がより確実に採用される環境整備に期待が寄せられる。

NETISは、民間企業が開発した技術をデータベース化し広く情報を公開。新技術の活用を促進することで、公共工事の品質や安全確保、コスト削減、環境保全などを

しかし発注者側は、実績の面から技術の優位性や信頼・安全性に確信が持てないなどの問題が寄せられ、その採用に踏み切れない現状があった。

そこで、新技術の開発と活用の隔たりを解消し、このように、現場で試行し事前事後評価が公表されるものはAタイプ、申請者が技術情報の掲載のみを希望するものをB

工事前事後で評価し結果を公表する。第三者の評価を加えることで、現場担当者が新技術を活用する際のリスクを軽減。従来工法に流れがちな公共工事に新技術採用の機会が増えるよう促す。